

拓水

種別は 県漁連三浦会報

10月号
No. 157

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫市兵庫区新在家町太
T E L 6685 686 6954
編集 三浦会報編集委員会
発行日 毎月30日
一部10円

昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

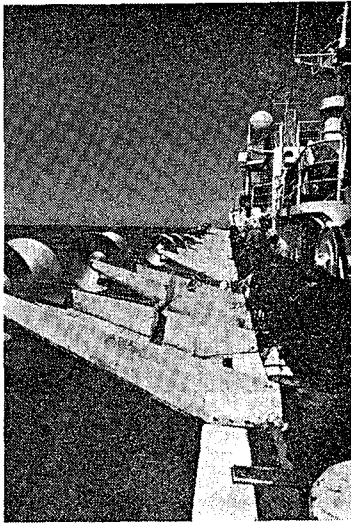
漁業近代化資金制度

いよいよ発足!!

純県費による、枠と利子補給率 の上のせも決まる

漁業近代化資金助成法が八月一日から施行に決まったが、県の予算措置、その準備の關係から、具體的実行は十一月に入ってからになる予定
業界等待望の漁業近代化資金制度が、ようやく実施の運びとなった。
もともと本県においては、早くからこの制度が県独自の制度で行なわれてきており、今までの県の制度と大きく異なるものでもないから、漁業者にとっては特別目新しい感じはないと思うが、県の従来からの制度との關係がどうか、又迫ってきている資金需要が、今度の制度によってどれくらいもてまえるのか、などを早く知りたいということだと思つて、取り急ぎ今度の制度のねらいとその内容について以下簡単に述べよう。

。制度のねらい
この制度のねらいとして、
第一には、長期かつ低利の資金を円滑に融通することによって、漁業者が漁船を建造したり、漁具を購置を原資とした貸出体制の導入したり、或いは養殖施設を設置するなど漁業生産に必要となる設備を整備充実して、漁業経営の近代化を進めよう。
第二には、この制度の資金は、単独を中心として信託承継二億五、〇〇万円、更に二億四、〇〇万円、五、〇〇〇万円は短期資金である。表の說明
第三には、この制度の資金は、単独を中心として信託承継二億五、〇〇万円、更に二億四、〇〇万円、五、〇〇〇万円は短期資金である。表の說明
第四には、この制度の資金は、単独を中心として信託承継二億五、〇〇万円、更に二億四、〇〇万円、五、〇〇〇万円は短期資金である。表の說明



自動機によるイカ釣操業試験、釣上つてくるイカが見える
—新田馬丸—

- (一) 第一号資金は、漁船以外の漁業用施設資金のことである。
- (二) 第二号資金は、漁船以外の漁業用施設資金のことである。
- (三) 第三号資金は、漁船以外の漁業用施設資金のことである。
- (四) 第四号資金は、漁船以外の漁業用施設資金のことである。
- (五) 第五号資金は、漁船以外の漁業用施設資金のことである。
- (六) 第六号資金は、漁船以外の漁業用施設資金のことである。

漁業近代化資金融資補給率

貸付対象	原資	補給率	利率	償還期間	償還回数	貸付額	償還時期
(1)総トン数20トン未満の漁船の建造、取得、改造	9.0	1.5	2.5	4.0	(1)	1,000万円	6月
(2)総トン数20トン以上の漁船の建造、取得、改造	9.0	1.0	1.5	2.5	(2)	4,000万円	12月
(3)漁船用機器の取得、改造	9.0				(3)		
(4)漁船の改良造成、取得	(個人)	9.0	1.5	2.5	4.0	1,000万円	6月
(5)漁船用材料保管施設	(個人)	9.0	1.5	2.5	4.0	(養殖業500万円)	6月
(6)漁船用油供給施設	(個人)	9.0	1.5	2.5	4.0	(その他200万円)	12月
(7)養殖池	(個人)	9.0	1.0	1.5	2.5	(共同1億円)	12月
(8)水産物処理施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(9)水産物冷蔵施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(10)水産物加工施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(11)水産物運搬施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(12)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(13)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(14)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(15)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(16)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(17)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(18)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(19)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		
(20)漁船用通信施設	(共同)	8.0	0.5	0.5	1.0		

第六号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第一号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第二号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第三号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第四号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第五号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第六号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第七号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第八号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第九号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。
第十号資金は、農林大臣の特認を要する施設資金である。

いつも漁場に一番のり
●主機用 4~1000馬力
●補機用 8~3000馬力
●3JE形/30馬力
久保田工業

神戸赤ディーゼル

(使う身になって作る赤機械)

堅牢！
高出力！
経済的！

船用主機関
●低速4サイクルディーゼル 240~1,600馬力
●中速ディーゼル 650・700・1,300馬力
●三菱2サイクルディーゼル 1,500~8,200馬力 各種

●N623RS350PS. (低速機、全長3.9米)

神戸発動機株式会社

本社及工場 神戸市兵庫区須佐野通8丁目10 TEL (078) 5031~6
支店及出張所 長崎(工場及支店) 東京、下関、北海道、仙台、今治

9月の漁況と海況 (内海側)

◎海況

9月上旬の海洋観測結果では大阪湾表層24~25°C, 10m層23~24°C, 底層22~23°C一方播磨灘表層26°C, 10m層25~26°C, 底層24~25°Cで前月に引続き大阪湾より1°C高目であるが、これを平均してと両海域共に1~2°C低目となっている。中旬の紀伊水道北部では表層24~25°C, 10m層24°C内外で平均にくらべやや低目となっているがO8(洲本沖)K2(和歌山県下津浦)に至る海域の底層では前月に引続き依然として4°C台の大きな異常低水温域を形成している。

◎漁況

(概況) 前月に引続き友ヶ島北部海域における タチウオ曳網漁は依然活況を呈し連日300隻をこえる出漁船があり1日1隻200~400尾釣獲し又岩屋松帆崎~鶴崎地先においては八田網で1隻1日1隻1日1隻(体長12~15cm)を1,500キロ内外の漁獲が続き近年にない豊漁。又、一方秋サワラ漁は今月中旬頃より鹿の瀬、上の瀬、鳴門南部の各海域共一日一隻10尾(日廻り2キロ)内外の釣獲で好漁。しかし前月迄活況を呈していた各地の小型底曳網は今月に入り低調となった。

(各地)

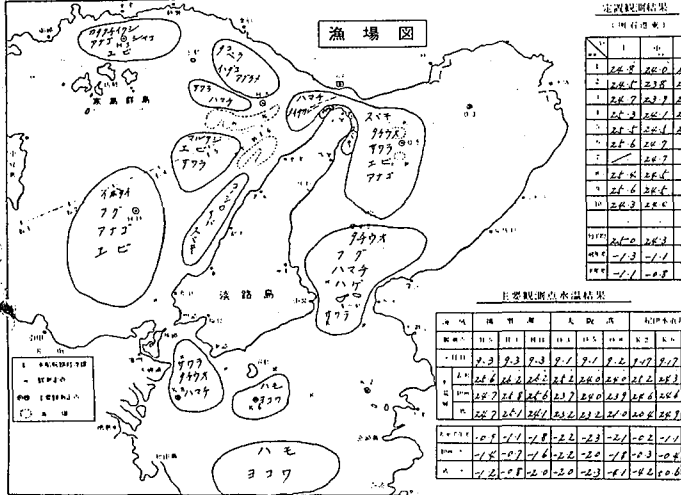
- 神戸西部** 小型底曳1日1隻メイタカレイ8キロ, キロ当り1,000~1,200円, アマカレイ2~3キロ, キロ当り600円, 白サエビ5~10キロ, キロ当り1,200円, タコ5~6キロ, キロ当り450~500円, 13隻操業, サワラ曳網1日1隻8~10尾, キロ当り800円日廻り2キロ内外, 上の瀬5~6隻操業
- 明石浦** 小型底曳1日1隻メイタカレイ10キロ内外, キロ当り800~1,000円, アナゴ4~5キロ, キロ当り(大)200円, エビ3キロ, キロ当り600~800円, タコ3~5キロ, キロ当り300円, クルマエビ20~30尾, キロ当り2,500~3,000円で50隻鹿の瀬操業, タチウオ曳網1日1隻100尾内外, 1尾60~70円, 60隻操業, マルアジ1本約1日1隻120尾内外, キロ当り300~400円20隻鹿の瀬操業, ハマチ五割1日1隻100尾内外, キロ当り400円4隻, サワラ曳網7~8尾, キロ当り700円日廻り2キロ平均, 40隻操業
- 林崎** 小型底曳1日1隻タコ20キロ, キロ当り400円, カレイ10キロ, キロ当り500円, アブラメ, メバル10キロ, キロ当り400~500円, 小瀬戸若網1日1隻カタクチイワシ2,000~15,000キロ, キロ当り20円, ハマチ五割1日1隻30~150キロ, キロ当り400~450円20隻操業, タコ壺1日1隻20~60キロ, キロ当り550円, 6隻操業
- 東二見** タコ曳網1日1隻50~60キロ, キロ当り(小)250~260円, (大)400円25隻別府沖操業, イダゴ1本約20~30キロ, キロ当り150円, サワラ巻網1日1隻1,000キロ, コノシロ小瀬戸1日1隻1,000キロ, キロ当り70~80円, ベラ曳網1日1隻200キロ, キロ当り300円地先操業
- 播磨室津** イワシ船曳網1日1隻4,000~5,000キロ, キロ当り20円, 5隻鹿の瀬操業, アナゴ延縄1日1隻30~40キロ, キロ当り500~750円
- 岩屋** 八田網マイワシ1日1隻1,500キロ, キロ当り200~250円, 10隻地先操業, サワラ曳網1日1隻7~10尾, キロ当り650~850円日廻り2キロ内外25隻上の瀬操業, トラフグ延縄1日1隻50~60尾, キロ当り1,000円日廻り750円内外8隻洲本沖操業
- 坂屋** 小型底曳1日1隻エビ10キロ内外, キロ当り400円, イボダイ(ボーズ)20キロ, キロ当り(大)250円, (小)100円, アナゴ30キロ, キロ当り80円, ハモ3~5キロキログラム当り600円, ハゲ30~40キロ, キロ当り250円, 40隻沖合操業
- 由良** タチウオ曳網1日1隻200尾内外, 1尾50円内外, 80隻深目沖操業, ハマチ曳網1日1隻20~30尾, キロ当り500~600円
- 沼島** コノシロ延縄1日1隻30~35尾日廻り4~6キロ, キロ当り600円, 60隻沼島南部操業, ハモ底曳1日1隻80キロ内外, キロ当り900円 35隻沼島南部操業
- 福良** タチウオ曳網1日1隻400~500尾(150キロ)キロ当り140~150円日廻り300円内外160隻深目, 洲本沖操業, タコ壺1日1隻100キロ内外キロ当り450~460円3隻, サワラ曳網1日1隻10~20尾日廻り2キロ内外, キロ当り600円20隻鳴門南部操業
- 丸山** 小型底曳1日1隻イボダイ(ボーズ)10~15キロ, キロ当り(大)360~370円, ナシフグ5~6キロ, キロ当り(大)250円, エビ2~3キロ, キロ当り330円10隻操業, キス建網1日1隻50~100キロ, キロ当り260円12隻鳴門北操業, アナゴ延縄10~12キロ, キロ当り360円, 6隻鳴門南北操業

◎本月の特徴

- 淡路松帆崎から鶴崎に至る地先にマイワシ中羽群の来遊が顕著である。
- 前月迄上の瀬、鹿の瀬周辺に來遊していた濃密なタチウオ魚群が拡散し、大阪深目沖から淡路洲本を結ぶ周辺に集中した。

◎今後の見込

本年秋サワラの回遊状況は現在のところ順調のようで今後、新仔の成長と共に釣獲対象に追加される内海留も11月中旬迄続く見込で引続き期待が持てそうである。又、現在不振を続けている小型底曳も、タコ、アナゴ、イカ、グチ、フグ、エソ、カレイ類などの新仔の成長と相まって来月頃には一時持ち直すことであろう。



魚病あれこれ(その2)

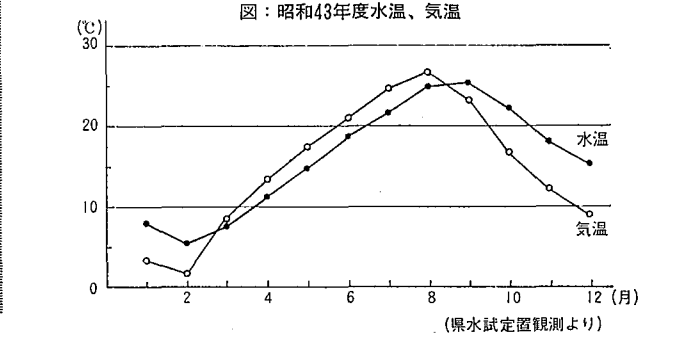
九月以降の病魚について 夏から秋にかけて、有機物が発生した変敗し、常時酸素量は低く口にかけて魚の死滅原因は環境変化(対流) 対流が起これば底層の酸素量の低い水は表層へ、表層の比較的酸素量の多い水が底層へ移動するため、海が底層に富み、特に、酸素量は海全体が低くなる。一方、魚は活発に摂食し、体の新陳代謝も激しく、酸素を必要とするが、養魚場の酸素量が低いと、酸欠状態を起す。そのため魚は徐々に衰弱し、この時期に魚は他の病気に冒され易くなる。この場合、海の表層は急激な冷えのため水温は下がり、底層の水温は表層より高くなる。従って、底層の水は表層へ、表層の水は底層へと移動する。

新調、対流を起す。 養魚場の底層は魚の排泄物、餌料の残りが堆積してはあった。 対流が起ると、極端な場合は、養魚場の魚が一気に死んで酸欠のため全滅することもある。幸い本県ではこのような例はまだ見えていない。しかし、過去においては危険状態に近い養魚場はあった。

従って、この時期の養魚管理は対流の現象が顕著であるか否かについて注意する必要がある。 昭和四〇・四一年の四年度の八月と十月の水温、気温の温度差を調べた結果を表に示した。 表から、四〇・四一年の兩年が対流が顕著な時期が予想される。しかし、四三年は気温は例年の如く下がったにもかかわらず、水温の下がりが他の年度と比較して少ない。従って、ハマチは順調に成長した年であった事がうかがえる。 さらに、水温は台風等の接近、来朝が多い年は下がることが多い。この時期の餌料であるが、対流が起れば餌は餌場から下下り、たとえ餌場としても、餌は十分に消化されずに排泄される場合が多い。 この結果、腸炎を起し、ますます魚体は衰弱する。この場合の処置としては、魚の量を少なくするとか、脂肪の多い魚種(サンマ、サバ)を与える場合には注意する必要がある。 従い、この時期に出荷し、少しでも放養密度を少なくする方法も考えられる。この時期の病魚の症状について挙げてみると、 (1)体表のヌレ (2)体表の寄生虫の付着 (3)対流の著しい場合は必ず起る。それが顕著か否かは年により変化するか、早期に発見し、餌料にも充分酸素を配って欲しい。 要は、養魚管理面から現場で水温観測だけでも行なうに変わらなければならない。 共に、魚の健康管理を十二分にすることが肝心である。

表：明石港における8月、10月の水温、気温の温度差

年度	水 温		(A-B)	気 温		(C-D)
	8月(A)	10月(B)		8月(C)	10月(D)	
40	25.0	20.5	4.5	28.0	16.5	11.5
41	25.5	22.0	3.5	28.0	18.5	9.5
42	26.0	22.0	4.0	28.5	17.7	10.8
43	25.0	22.3	2.7	27.0	17.0	10.0



● 漁場と市場を結ぶ!

(新製品)

● PM形 / 3馬力~4馬力

● 船舶主機用 3~800馬力

● T形 / 10馬力~20馬力

ヤンマーディーゼルのエンジン

ヤンマーディーゼル株式会社 / <本社>大阪府北區茶屋町62番地

のり特集

本年度の養殖計画を見る

また今年もノリ養殖のシーズンがやって来た。要領のいい熟練者は早くも今年の収支計算をする程のゆとりもあるが、ノリ養殖は今が初めてという新人は果してうまく行くのかと少し心細くなっているかも知れない。この数年の間にノリ養殖の伸びは実に素晴らしいものである。昨年の四方欄に見られたものは、今年はその倍の八万冊に接近するといふ。さて、種付けを目前に控えた各地の状況はどうか。そうした姿を集めてここに掲載する次第。

漁場利用の再検討

神戸 昨年度は約五千冊。種網は従来どおり愛州・生産をあげたが、昨年度は準水以西にも漁場が広がり西寄せ、網も強かつた好結果から、本年度には防波網が設置される。種網は約八千冊で、三ノ浦月に生産の主力がある。漁網の長い点から、養殖は昨年度の二倍の三千冊が予定され、一冊当り二五〇枚の昨年度と同等に、漁場利用の再検討がなされつつある。(山口)

明石ノリをめざして

石 昭和二十九年、網ひび、二枚を張り込んでしまつた明石市のノリ養殖は昭和二十九年、構設事業による防波網と全浮動方式に取り組み先進地の長所をとり入れながら、血のなまを流して、改良努力により、明石の気象、海況に合わせた養殖技術および管理方法を身につけた明石のノリ養殖業者の奮闘の功が、今日、全国に「明石ノリ」として示された第一歩である。

浮流し養殖と冷蔵網がふえる

姫路 本年度養殖計画の見通しは昨年とあまり変わらないが、市内養殖業者三五〇〇冊で販込みは約一万三千冊。その八〇％はベタ流し養殖法になっている。種付けは十月十日から二十日頃まで、市営人工採苗場にて培養して自ら採苗場へ送り、浮流しという状態を使用し、給食に自給飼料がほとんどである。このほか移入種網も二枚程度が購入される見込み。

冷蔵網がふえる

ます赤穂漁協では組合員九三名中、八六名がのり養殖を行なう。うち三〇枚が種付けされる。うち固定種網一、八九枚、昨年二、二〇〇枚、三六枚、二九〇枚(四三〇枚)が本販された。五〇〇枚が冷蔵された。本年度計画の特徴は固定種網を減らし、浮流しという状態を行なつたことである。冷蔵網により安定した産量を確保することになる。

のり養殖の夢

誰であつたか、自動航海ル状の固定式のもの三二冊のものを、「道幣同一」の型があるようだ。これは呼んだ者がいた。この驚愕ののり養殖、せいぜいあつた五年と言ふが、いやいや十年位は持つと信じて居る者も見まました。この盛況の形が未来永劫に続くことは機械化、組織化が極めて進歩しているにもかかわらず、必ず到達するであろう最前線に発展した一兵隊ののり養殖の姿をアフレコの想像するのはやむを得ない。のり養殖は船中が都合悪いので、それが出来れば、それも大胆に、播種難の下の真中あたり、随所に洋上基がある。よく見ると二枚布被シカンの如き浮動式のものといふタイプ

養殖冊数は一挙に昨年の五倍

本年は養殖冊数が昨年の五倍に達する見込みである。これは一、一三〇冊の養殖冊数を昨年と比べて五倍に増やしたからである。これは一、一三〇冊の養殖冊数を昨年と比べて五倍に増やしたからである。

淡路地区

西浦 昨年度、冬期季節沿岸で初めて行った大規模のノリ養殖試験の結果に刺激され、本年から五、富島、育波地区でも養殖が始められる。養殖冊数は一宮町の四百三冊網を含めて七千四百冊ノリ網一萬二千枚の計。この地区は昨年のため採取回数に制約を受けたことが多いので、一宮、富島では水試の指導により、ノリ冷蔵試験を行なう予定。

東浦

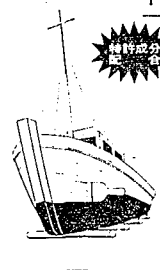
淡路島内では比較的古くから行なわれていた所が多いが、年々新規業者が増加して、本年は一〇〇冊程度の試行的な養殖が行なわれたが、本年から本格的な事業として、福良、阿万地区も加へ合計約四千三百冊が計画されてい

水研クラブで養殖試験

但馬地区 但馬におけるのり養殖でものり養殖は可能と考へ、十年前に柴山港水産研究所クラブが柴山港内で固定式と浮流式(共二枚)で行なつたのが始まりで、その結果から養殖の可能性を見ながら、昨年行なつた。名が四二年に香住町今子地先に同型式により試験(五枚)を行なつた。いずれも種網は保存された。のりの成育は良好で一部採取されたが、流れ藻などの網がさられた結果、中途で中止させた。この結果から、種網費は多く必要とするが流れ藻対策を講ずれば但馬におい

TIN PAINT SUZUTOX

新しい時代に新しく開発した
トーヨーのカラー船底塗料(木船用)



スズトックス 赤・緑・白 各色有

●従来のドクチャンと全く異り、数倍の強力な防汚効果があります

創業60余年の木材の防汚・防虫に関する専門メーカー

東洋木材防腐株式会社

本社 大阪府北花区桜島町3-7 電話06(461)0431(代)

東京営業所 東京都中央区銀座6-12-12 電話東京03(572)6731-3

のり養殖の基本方針

水試 竹田 文弥

ノリ養殖の成功は、組織的な管理体制を確立することと、個人がやるべきこととを明確に区別することとが重要である。本年ののり養殖は、一人当たり二〇、二枚の規模で作るべく、一人当たり一、一人当りノリ養殖の考え方

管理責任、ノリ養殖を行なうには漁場を単位とした組織的な管理体制を確立することが必要で、統一的組織がなければ養殖の結果は期待できない。漁場に適合した冊数、個人の持ち出しの制限、種付け、本販、摘採に關するより決めなど管理体制の確立しておくべきである。

その漁場に適合した冊数の育成を促し、自家採苗を奨励する。その後には五枚重なる二枚に養殖を続け、一月半から二月半は病害の発生を予防する。幼魚は十二月二十日までに入船を完了する。

のり生産者協議会開催される

去る九月二十七日、水産会館で本年度第二回ののり生産者協議会が開催され、同日十七日の共販推進協議会で検討された本年度の共販の基
本方針、共販実施上の具体的な事項が協議承認されました。
当日の出席者は、水試始め来賓五十名、生産者の出席は、一〇〇名の
多きに達し、極めて盛況裡に終りました。

主要事項は次のとおり。

(一) のり委託生産について
委託先明細
愛知八二五、三重一
四七〇
徳島三七三、熊本八
一四五
和歌山一八〇
(二) 二、四七五枚
(三) 種別後水試委員、
漁連にて種付状況を視
察する。
(四) 種別の引取りは例年
より若干早くなる見込
み、追って時期は具体
的に連絡いたします。
(五) 種別手数料(運賃)
諸掛は一枚当り八〇
円とします。
二、のり共販について
本年度共販基本方針

(別掲参照)
(一) 共販実施上の具体的
事項
(二) 組合による自主検査
を建前とし、状況に
よって漁連又は第三
者による検査を実施
する。
なお自主検査を助長
するため、自主検査
対象組合に対して自
助金を交付する。
(三) 目付け(枚数につ
きの基準とする。
一、三三回 二五〇〇
ラム以上
四、一五回 二七〇〇
六、四回以降 二八〇〇

(別掲参照)
組合毎の集荷は漁連
集荷日の前日まで
集荷完了すること。
入札
入札は現本による見
付組合一括入札と
し、入札価格は枚数
当り円を以て示す。
見本は買入により
中味を見本より抽出
する。
見付は見本より次
の等級とする。
一等、二等、三等
特長、特一、二、三
等、松、竹、梅
等、特一、二、三等
等、外は被服、貝入り
等は適宜とし、等
級は適宜とする。
以上を建前とする。

軽...右の基準に満
たぬもの
重...一回一三回
三四〇瓦
四回以降 三五〇〇
規格
黒、飛、靄、青、赤
目、縮み、小穴、等
外(内容を別掲)

冷蔵網は(冷)とする
黒、飛、靄、赤目は
特長、特一、二、三
等、松、竹、梅
等、特一、二、三等
等、外は被服、貝入り
等は適宜とし、等
級は適宜とする。
以上を建前とする。

が状況により、中間
の等級として〇印を
つける(〇は一等と
二等の中間の等級と
なる)。

(四) 集荷
集荷は入札日の前日
とする、但津路地区
は前々日とし、家島
坊勢地区は共販所ま
で持込むものとする。
集荷運賃は漁連
負担。
組合毎の集荷は漁連
集荷日の前日まで
集荷完了すること。

(五) 入札
入札は現本による見
付組合一括入札と
し、入札価格は枚数
当り円を以て示す。
見本は買入により
中味を見本より抽出
する。
見付は見本より次
の等級とする。
一等、二等、三等
特長、特一、二、三
等、松、竹、梅
等、特一、二、三等
等、外は被服、貝入り
等は適宜とし、等
級は適宜とする。
以上を建前とする。

開票の立合は生産者
三名、商社二名。
(六) 清算
共販代金の清算は一
週間以内でできるだけ
早く行うを原則とし、
商社より数量その他
についてクレームが
ついた時は次回入札
分振代金を精算す
る。

(七) 共販日程
共販日程は(九
月)の八日(日)以前に
決定することとする。
共販日程の決定は、
府県の入札日程を
勘案して決定する。

本年度のり取扱

のり生産の拡大と流通の
複雑化に伴い、のり共販は
全面的な視野において行な
うべきであるとして、前年
度始めて全面的な指導方針
が打出され実施されたこと
を、細部については改善さ
れるべき点はあるとして、
も、一応所期の目的は達せ
られました。

そこで本年度は更に検討
を加え、問題点を解消し充
実にさせる方向で推進すこ
として、七月一十月にか
けて、全国会議、ブロック
高松、光治(林、崎、
村上正村、明(石、
村田、貞良、天、建、
清水、一男(網、上、
今井、俊一(赤、徳、
森、吉一(津、
石上、実信(一宮、
町)

基本方針

のり生産の拡大と流通の
複雑化に伴い、のり共販は
全面的な視野において行な
うべきであるとして、前年
度始めて全面的な指導方針
が打出され実施されたこと
を、細部については改善さ
れるべき点はあるとして、
も、一応所期の目的は達せ
られました。

そこで本年度は更に検討
を加え、問題点を解消し充
実にさせる方向で推進すこ
として、七月一十月にか
けて、全国会議、ブロック
高松、光治(林、崎、
村上正村、明(石、
村田、貞良、天、建、
清水、一男(網、上、
今井、俊一(赤、徳、
森、吉一(津、
石上、実信(一宮、
町)

信用限度残存を確認
するため、対象商社
機関を設けて対象商社
の取引日限を作り円滑
な実施をはかる。
本県は中四国ブロック
が打出され実施されたこと
を、細部については改善さ
れるべき点はあるとして、
も、一応所期の目的は達せ
られました。

そこで本年度は更に検討
を加え、問題点を解消し充
実にさせる方向で推進すこ
として、七月一十月にか
けて、全国会議、ブロック
高松、光治(林、崎、
村上正村、明(石、
村田、貞良、天、建、
清水、一男(網、上、
今井、俊一(赤、徳、
森、吉一(津、
石上、実信(一宮、
町)

本県における実施方針

次に本県の共販の基本
方針であるが、前述の全国
取組の指導方針に則り、本
県の状況に応じて具体的に
実施する。

一、共販参加商社の信用限
度の設定。
二、全国的な対象商社に
ついてはその信用度を特
に、オーバーは現
金決済とする。
三、前号の対象とならな
い商社については現金
取引を建前とし、必要
により信用限度を設定
する。ブロック及び系
統金融機関(協賛)と
共販推進協議会について
二、のり共販基金について
三、全国的な共販基金
に引き続き加入し、漁連
負担に併立する。前
年度設立額は八二二
八二円。
四、対象商社は二社(三
共販参加商社三社)
は各県別の共販基金
は各県の状況を調査検
討し、生産者と充分協
議して早期実施を期し
たい。

三、平均売りの促進
生産、流通並びに資金調
達の状況に即しては、生
産者、流通業者との共同
な問題点として、
一、一定価格水準維持の保
証と販売調整から生ず
る価格変動の調整。
二、現物保管、火入れの問
題

し調整の措置を講ず
るべきである。前年
度はその必要性が求
められない作柄であ
った。指導その他に
ついては、
四、全漁連への養殖研
究センター(前長官
掛先生)を通じて、のり
養殖に関する病理、新
機械の開発、新規集荷場
の研究開発等の推進、講
習会等を行ない生産者
の技術水準の向上をは
かる。
五、生産指導について
近年、本県ののり養殖の
伸びは極めて大きく、種
苗、種網等の需要は急増
しているが、これは必ず
ずしも自前産だけでは
なく、他県に依存する度
合も高く、反面、全国的
に漁場規制が厳しくな
ってきたので、種網等と
りまの環境は悪化してい
る。このため、種網等を
生産者の手に引き取り
、その生産体制を整
備する必要があると認
めらる。

そこで本会としては昨
年度の共販推進協議会
を設けて種網のあっせ
ん、のり養殖に関する教
育活動、共販の強化等に
当たってきたが、更に生
産指導にも積極的に取
組んでいきたい。もとよ
り生産指導にはその体制
整備が必要とするので、
水試始め関係御当局
の上の御指導、御助成
を懇願いたします。
以上、如く系統共販の基
本方針としては、確実な代
金回収及び流通と金融の合
理化をはかり、あわせて安
定価格水準維持することを
主要課題として、関係各
位との御理解と御協力を
特にお願いたします。(内海漁連)

海苔養殖と冷蔵網

(講演要旨)

泉、内海漁連、明石市共
産の海苔養殖研究会が
九月十日、明石市共産
ホールに約四百名が集り盛
況裡に開催された。講師は
漁業制度課水産課小黒課長
榎田。水産庁南四国水産
研究所・青藤雄之助博士で
その講演内容から「のり養
殖のあり方」について要約
してみました。

海に合せた
生産方式の確立
全例ののり養殖生産は
戦後の一〇億枚から、最近
では四〇億枚が年作とい
われるほど伸びてきてい
る。これは人工採育や浮流
養殖等の技術開発によるた
りである。いま全国に三〇
〇万近い養殖機が、一
一冊に二枚の収獲が可能
と見込めば、六〇億枚の生
産をあげる年産がある。
しかし、毎年どこかに不
作があつて未だ四五億枚を

このころ、能力以下の
生産しかあげられない理由
には、のりを増やす方向の
個人的技術ばかりが伸び
て、全体の漁場利用技術
の進みが原因といえてい
る。儲かるのり養殖は安定し
た生産を第一とし、その
ためには第一に、海力の
に合わせた生産のあり方を
考えて行く必要がある。
のりを育てる
漁場環境が必要
のりの養殖環境には自然
水温二〇～一五度の範圍

のり養殖は、育苗から採育
までの期間は、育苗は二
八度以下で採育は、一五
度以下で成業にして採殖す
るが理想とされている。危
険期間といわれる時期は
水温二〇～一五度の範圍

で、幼芽か幼葉のときに
あるからこの時期の管理
が最も重要である。
気温の高いときは干出時
や、また海の状態にも大き
な影響を与えない原因に
なる。

(干出の問題)
干出の効果は、青ケイ藻
の繁殖、増殖、病害予防
の時期は、青ケイ藻の繁
殖、増殖、病害予防の期
間には、干出の場所は、
干出の場所は、干出の時
間は、干出の場所は、干
出の場所は、干出の時

生産増強策を
冷蔵技術を活用
冷蔵網の目的は(一)密着
危険期を避ける病害防除
策、(二)病害発生時の種網
確保による生産回復、(三)
期延長や連作による生産増
強策の三つに大別され
る。最近の考え方は危険期

全国的な総枠(約百
億)に配分し、各プロ
ダクに配分し、商社毎
に設定する。
(二) 対象商社は共販参加
商社(七五〇社)のう
ち前年度交付実績五千
万円以上の商社及び全
国的な視野での信用限
度を設定する必要が予
測され、二二共販体が加
入しているが、本年度
は全共販体加入を促進
する。

三、平均売りの促進
生産、流通並びに資金調
達の状況に即しては、生
産者、流通業者との共同
な問題点として、
一、一定価格水準維持の保
証と販売調整から生ず
る価格変動の調整。
二、現物保管、火入れの問
題

のり共販の向上をは
かる。
内容を豊富にして、技
術ハンドブックの性格
を強く利用の便をはか
る。
効果的な消費宣伝に
つとめる。前年度宣伝
広告費予算は全漁連千
万円(うち泉漁連負担
は五百万円)であつ
た。

五、生産指導について
近年、本県ののり養殖の
伸びは極めて大きく、種
苗、種網等の需要は急増
しているが、これは必ず
ずしも自前産だけでは
なく、他県に依存する度
合も高く、反面、全国的
に漁場規制が厳しくな
ってきたので、種網等と
りまの環境は悪化してい
る。このため、種網等を
生産者の手に引き取り
、その生産体制を整
備する必要があると認
めらる。

そこで本会としては昨
年度の共販推進協議会
を設けて種網のあっせ
ん、のり養殖に関する教
育活動、共販の強化等に
当たってきたが、更に生
産指導にも積極的に取
組んでいきたい。もとよ
り生産指導にはその体制
整備が必要とするので、
水試始め関係御当局
の上の御指導、御助成
を懇願いたします。
以上、如く系統共販の基
本方針としては、確実な代
金回収及び流通と金融の合
理化をはかり、あわせて安
定価格水準維持することを
主要課題として、関係各
位との御理解と御協力を
特にお願いたします。(内海漁連)

